

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(26点)

※ プナン社会は獲物や様々なモノを分かち合うことによって、貧富の格差がない、平等主義的な社会を築き上げてきました。

だとすると、そこにはリーダーはいないのでしょうか？

プナンの共同体にも全くリーダーがいらないという訳ではありません。^① 世襲的ではなく、その場その時に生まれるリーダーがいるのです。プナン語では、ラケ・ジャアウと呼ばれる存在で、英訳すれば「ビッグマン」です。

どのように選ばれるかという点、シェアリング・エコノミー、つまり皆で分かち合う経済を他の人たちよりも積極的に行う人物が、ビッグマンになる可能性があります。でも投票で決めたりするわけでもなく、自然にそうなっていくのです。つまり、ビッグマンという社会的地位が先にあってその地位に誰かが選ばれたり、誰かが就いたりするわけではありません。言い換えれば、職位に権力が属しているわけではないので、権力が「上」から「下」に発生するわけではないのです。

率先して周囲の人たちに対してモノを分け与えることにより、そのことが人々に評価された結果として、人はビッグマンになるのです。プナン社会の根本原理「ケチはダメ」、「寛大であるべき」を最も実践する人物こそが、ビッグマンなのです。

シェアリング・エコノミーが行われている社会において分かち合うことは当然のこととみなされていて、分け与えてくれた人物に対して謝意を述べることはありませんでした。モノが贈られた時に「ありがとう」という言葉が発せられることはありません。プナン語にもまた、「ありがとう」という言葉自体がないのです。

何ごとに対してもすぐに「ありがとう」という言葉を発して、謝意を伝える私たちのやり方は、プナンには通じません。ただ、それに代えて、ほとんど使われる機会はありませんが、分かち合う寛大

な精神を称える「よい心がけ(ジアン・クネップ)」という言い回しがあります。分け与えるのは当然のことと考えられていて、その精神が称えられるのです。^② 贈与交換の原理が、私たちとプナン社会では、根本的に違っています。

気前のいいビッグマンのもとにはいろいろなものが集まってくるのですが、集まってくるのはお金やモノだけではありません。誰それがどこそこで何をしたとか、どこそこにヒゲイノシシやシカの真新しい足跡があったなどの情報もまた、彼のもとに集まってくるのです。

ビッグマンは、早朝、狩猟キャンプのメンバーみなに向かって話しかけます。どこそこの川の上流に昨日動物の足跡があったから今日はそちらを目指して狩猟に出かけよとか、オオミツバチが高木に巣を作っているので果実の季節はもうすぐやって来るはずとか、それに備えて毒矢づくりにかかれなどという、生きていくうえで有用な情報も惜しみなく分け与えるのです。

^③ その意味で、ビッグマンの言葉には重みがあるのです。そうした日々の行動によって彼はますますビッグマンとしての地位を安定させていくのです。物惜しみをせずに、モノであってもお金であっても情報であっても、何でも分け与えることによって、彼に対する人々の信頼が高まっていくのです。キャンプのメンバー同士が諍^{いさか}いを起こした時などには、彼の発する言葉は、問題を裁定する重要な指針となります。

さて、誰にでも独占欲が生まれながらにして備わっているのだとすれば、ビッグマンにだってまだ独占欲が残っていないとも限りません。周囲の人々に率先してモノを分かち合うことによってビッグマンとなった男にも、モノを独り占めしたいという欲求は残っているのです。

ビッグマンは、自分のために、あるいは家族のために、お金を貯^た

めたり蓄財したりすることがあります。自らそうする場合もあるでしょうし、家族にねだられてする場合もあるでしょう。いずれにせよ、実際に蓄財や貯金が行われると、そのビッグマンは「持つ者」になります。その結果、他の「持たざる者」とのあいだで格差が生まれることになり、平等主義の原理が崩れてしまう可能性が生まれます。

言葉が重んじられ、お金やモノを持つようになると、ビッグマンは権力を意識し、周囲の人々に対して、尊大にあるいは傲慢に振舞うようになるかもしれません。興味深いのは、プナンは、^④蓄財する」というビッグマンの「穏やかでない」振る舞いを決して見逃したりしないということです。ビッグマンが独占欲を見せ始めていることを察知した人たちはいったいどうするのでしょうか？ 人々は、当のビッグマンに対して文句を言ったり、述べ立てたりするよりも、そのビッグマンに見切りをつけて、彼のもとから離れていくことが多いのです。いわば、黙って行動に移るわけです。

そうした勘を働かせた人たちは、別の気前のいい、ケチではない、シェアリング・エコノミーをよくするビッグマンのもとに馳^はせ参じて、そちらのビッグマンのもとで暮らすようになります。そういった意味でプナンは、社会的な流動性の高い社会を生きています。

人がいなくなると、ビッグマンのもとには、お金やモノだけでなく、情報も入ってこなくなります。それらの流れが途絶えてしまうことによって、彼は、ビッグマンではなくなってしまうのです。

これらのことを踏まえれば、ビッグマンは、気前の良さや物惜しみをしないことによって、一時期、小さな共同体の中で権力を持ち始めていたことができるでしょう。しかし、富を増やして、自分や家族のために使いたいという欲が彼の心の中に住みつくようになると、人心はしだいに離れていきます。ビッグマンが権力を行使すべき対象である人々が彼のもとからいなくなってしまうのです。

人々が周囲からいなくなってしまう前に、ビッグマンは自らの独占欲を抑制するかもしれません。自らの欲ばりな振る舞いを、「ケチはだめ」「寛大であるべき」というプナン社会の根本原理に従って修正するのです。そうすれば、ふたたび彼のもとには、人々が集まってきます。お金やモノ、情報などが入ってくるようになるでしょう。それらを周囲に気前よく分かち合うことによって、また彼らは人々に敬われるのです。

ビッグマンが死んだとしても、彼の息子や家族にその地位が引き継がれることはありません。狩猟キャンプに寛大な精神を持った人物がいない場合には、人々は、寛大で物惜しみをすることのない人物のもとに行って暮らすようになるのです。いずれにせよ、権力は、親から子へ、子から孫へと受け継がれるような世襲のものではありません。

言い換えれば、プナン社会においてビッグマンであることは、民心によってのみ可能になるのだと言えるのかもしれませんが、ビッグマンは実は、人々によってつねに見られ、監視されているほうなのです。気前よく振るまえ、ケチであってはならないという社会的規範を誰よりも実践することと引き換えに、彼は人々を支配下に置くことができるでしょう。それはある種の権力の芽生えでもあるのです。しかし、ビッグマンがビッグマンでありつづけるためには、いつも通り自身が率先して分かち合いを実践し、物惜しみせずにはたすら人々に分け与える必要があるのです。

プナンは、分かち合いをしなくなったビッグマンから逃げて、結果的にビッグマンをその座から引きずり下ろすことによって、権力が一人の人物に集中することを防いでいるのです。^⑤ビッグマンの権力とは、なんと儂^{はかな}い、最小限の権力であることでしょうか！

(奥野克巳^{おくのかつみ} 著『ひつくり返す人類学

生きづらさの「そもそも」を問う』による。一部省略がある。)

(注) ※プナン……ここでは、マレーシア・サラワク州(ボルネオ島)

の熱帯雨林に住む狩猟民のこと。

問1

① 世襲的ではなく、その場その時に生まれるリーダーがいる

のです。とありますが、プナン社会でリーダー(ビッグマン)が生まれる状況の説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

ア シェアリング・エコノミーを周囲の人間よりも積極的に行い、共同体の中で最も大きい身体をもった人物が周囲から認められてビッグマンとなる。

イ 「ケチはダメ」、「寛大であるべき」というプナン社会の根本原理に基づき、誰よりも行動していると人々から評価された人物がビッグマンとなる。

ウ 率先して周囲の人たちに対してモノを分け与えていると評価された人物の中で投票が行われ、民主的に選ばれた人間がビッグマンとなる。

エ 獲物や様々なモノを分かち合い、貧富の格差がない、平等主義的な社会を実現した者のみ、権力者から地位を与えられてビッグマンとなる。

問2

② 贈与交換の原理が、私たちとプナン社会では、根本的に違

っています。とありますが、筆者の考える「私たち」とプナン社会の違いについて、次のようにまとめました。空欄Ⅰにあてはまる内容を五字以上、十字以内で書き、また、空欄Ⅱにあてはまる言葉を十二字で本文中から書き抜きなさい。(7点)

シェアリング・エコノミーを行う社会の一つであるプナン社会には、「私たち」が使う「ありがとう」のような
Ⅰ がない。その代わりに、ほとんど使われる機会はないが「ジアン・クネップ(よい心がけ)」という、分か

ち合う寛大な精神を称^たえる言い回しがあり、
と考えられている。

Ⅱ

問3

③ その意味で、ビッグマンの言葉には重みがあるのです。

とありますが、このように筆者が考える理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

ア ビッグマンは、モノやお金を分け与える際に狩猟キャンプのメンバー全員ではなく特定のメンバーだけに話しかけるので、人々はビッグマンから優遇されたいと感じているから。

イ ビッグマンのもとには、狩猟キャンプのメンバー全員の情報が集まってくるという状況によって、ビッグマンの発言は諍^{いさか}いが起きた時に重要な証拠となると考えられているから。

ウ ビッグマンはお金やモノだけでなく、生きていくうえで有用な情報もみなに惜しみなく分け与えるという行動を積み重ねていくことによって、人々から高い信頼を得ているから。

エ ビッグマンは物惜しみをせず何でも与えてくれるので、諍^{いさか}いが起こった時にも、問題を解決できるような常に正しい助言を与えてくれると周囲の人々からは信じられているから。

問4

④ 蓄財するというビッグマンの「穏やかでない」振る舞い

とありますが、蓄財することを筆者が「穏やかでない」と表現するのはなぜですか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

ア ビッグマンがお金やモノを持つようになると、周囲の人々に対しても独占欲を見せ始めて集団から離れることを禁じ、プナン社会の流動性の高さが失われる恐れがあるから。

イ ビッグマンが蓄財や貯金を行うことによって「持つ者」になると、「持たざる者」との間の違いを意識し、人々に対して尊

ウ ビッグマンの地位が安定し、人々に率先してモノを分かち合う精神を忘れて、お金やモノを持つようになると、他者に対して文句を言うことが頻繁に起こるようになるから。

工 ビッグマンが独占欲を発揮し、お金を貯めたり蓄財したりすることが起こると、集団の中で格差が生じ、プナン社会の平等主義の原理が崩れてしまう可能性が生まれるから。

問5 ⑤ ビッグマンの権力とは、なんと凄い、最小限の権力である

ことでしょうか！とありますが、筆者はなぜ「儚い、最小限の権力である」と考えるのですか。次の空欄にあてはまる内容を、**実践、監視**の二つの言葉を使って、四十五字以上、五十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。

プナン社会の人々は、

[illegible]